

令和3年度長崎北高等学校 学校評価

1 学校評価アンケートで評価が高い項目（4, 3, 2, 1の4段階評価の平均が3.3以上）

	項目（数値）
生徒	下校時間を守り、適切な時間に帰宅している。（3.6）
	学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。（3.5）
	周囲や相手のことを思いやって生活している。（3.5）
	北高は、朝の10分間読書の時間が十分に確保されている。（3.4）
	北高での生活は充実している。（3.4）
	容儀・服装に注意し、あいさつがきちんとできている。（3.4）
	北高は、生徒が自主的に学習できる教育環境を整えている。（3.4）
	北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。（3.4）
	北高は、生徒の病気や事故に適切に対応している。（3.3）
	学校から配布される資料・プリントを保護者にきちんと渡している。（3.3）
	掃除に積極的に取り組み、教室などの整理整頓に心がけ、環境問題に関心を持って取り組んでいる。（3.3）
保護者	子どもは、適切な時間に帰宅している。（3.5）
	子どもは、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。（3.4）
	子どもは、バスの中など校外でもマナーを守り、周囲に迷惑をかけないように行動している。（3.4）
	北高は、容儀・服装指導を適切に行っている。（3.3）
	生徒の疾病や事故に迅速・適切に対応している。（3.3）
	北高で行っている朝の10分間読書は意義がある。（3.3）
職員	子どもは、学校生活が充実しているといっている。（3.3）
	北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。（3.3）
	生徒の疾病や事故に迅速に・適切に対応している。（3.7）
	学校は、生徒がいつでも学習できるような教育環境を整えている。（3.4）
	適切な情報に基づく進路選択を指導している。（3.3）
	学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加するよう指導している。（3.3）
悩みや不安を持っている生徒にこまやかに対応している。（3.3）	
生徒・保護者からの相談によく乗っている。（3.3）	

2 学校評価アンケートで評価が低い項目（4, 3, 2, 1の4段階評価の平均が2.8以下）

	項目（数値）
生徒	北高は、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。（2.8）
保護者	北高は、職業について、生徒に具体的に考えさせる指導をしている。（2.8）
職員	各分掌の内規の見直しは、先を見て適切に行われている。（2.7）
	清掃活動や教室などの整理整頓に取組ませ、環境問題への関心を育んでいる。（2.8）
	地域や校外機関と連携して教育活動や環境浄化に努めている。（2.7）

3 重点目標とアンケートの状況

(1) 確かな学力の育成

- ① 自学を支援し、主体的で持続的な学習態度を養う。
- ② 「振り返り」を徹底し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。
- ③ 「問い」の質を追求し、思考力・判断力・表現力を養う。
- ④ 指導設計と授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ⑤ 朝の読書や総合的な探究の時間を通じて、生涯にわたる学びの基盤を養う。

- 「家庭学習によく取り組んでいる」という設問に対して、保護者 3. 0、生徒 2. 9であり、ともに学年が進むにつれて数値は向上している。今後の課題は、低学年次から進路意識を向上させ、主体的に学習へ取り組む姿勢を育てることである。
- 「わかりやすく質の高い授業を行っている」についての生徒評価は2年連続で改善され3. 0であった。一人一台端末の有効活用により、今後一層学習効率と学習効果の改善を図っていく。
- 「教科内で学年を超えた連携を図っている」についての教員評価が過去7年間で最も高い3. 2となった。互観授業期間の授業見学や、経年研の一環として行われる研究授業・公開授業が教科内の意見交換のきっかけとなっている。
- 「朝の10分間読書」について、保護者 3. 3、生徒 3. 4とその意義についての評価が高く、研究・図書部でも図書館利用促進に向けポスターの作成や動画配信を行うなど広報活動を積極的に行っている。

(2) 豊かな心の育成

- ① 「生徒ができることは生徒に任せる」ことを徹底し、主体性を育む。
- ② すべての教育活動で協働を促し、互いに認め合い高め合う態度を育む。
- ③ 社会人としての常識やマナーを身につけさせ、北高生としての品性と誇りを育む。
- ④ 人権教育や美化活動を通して、思いやりや感謝の心、公共心・公德心を育む。
- ⑤ 学習と部活動の両立を支援し、自主・自律の精神を育む。

- 「学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している」に対して、保護者評価が3. 4、生徒評価が3. 5とともに過去2か年の数値よりも高く、生徒たちが主体的に活動している場面が増えたためだと推測できる。それに比例して「北高での生活は充実している」の保護者評価が3. 3、生徒評価が3. 4の高評価につながっている。今後も「生徒ができることは生徒に任せる」ことを教員間の共通理解としてサポートをしていきたい。一方「生徒会活動が活発である」についての評価は保護者 3. 1、生徒 3. 0にとどまっており、昨年同様生徒会活動の活性化のための手立てが必要である。
- マナーや周囲への思いやりに関しては、保護者 3. 4、生徒は 3. 5といずれも良好な評価である。本年度は、昼食時の始めの20分間を黙食の時間としたが、生徒たちは非常に協力的である。
- 容儀・服装、挨拶への取り組みについては、生徒から高評価の3. 4である。また、清掃活動の取り組みについての生徒の評価は昨年度3. 2から3. 3に改善された。今後も全生徒・全職員で清掃活動を行っていきたい。
- 「周囲や相手のことを思いやって生活している」についての生徒評価は3. 5と高評価である。また「子ども、バスの中などでもマナーを守り、周囲に迷惑をかけないように行動している」についての保護者評価も3. 4と高評価である。

- 「北高は学習と部活動の両立をよく図らせている」について評価は、保護者が昨年同じ3.2に対し、生徒は0.1ポイント下がり3.0である。また、職員の「『両道頭揚』の実現を目指し、学業と部活動の両立を目指す活力ある生徒の育成によく努めている」の評価も昨年度より0.1下がり、3.1であり改善の余地がある。

(3) 安心・安全な教育環境の充実

- ① リスク管理に努め、安心・安全な教育環境の整備に努める。
- ② 観察や面談による生徒理解に努め、早期からの組織的な対応と支援の充実を図る。
- ③ 保護者やSC・関係機関等との連携を図り、生徒支援体制の充実を図る。
- ④ 健康安全教育と保健管理に努め、健康の維持・増進や安全意識の向上を図る。
- ⑤ 基礎体力の向上に努め、心身ともに健康かつ逞しい生徒を育成する。

- 「北高は、教育に必要な施設や設備が整っている」について保護者3.3、生徒3.4とともに過去2か年よりも高い評価となっている。今後も保健主事の呼びかけによる校内点検を適宜実施するなど安心・安全な教育環境の整備に努めていきたい。
- 「北高は病気や事故に適切に対応している」について保護者・生徒とも3.3であり、職員評価も3.7と高評価になっている。
- 生徒の不安や悩みへの対応に関しては、保護者、生徒ともに3.0である。今後も学期ごとに実施する悩み調査のほかに、相談室だより等を通じて対応の窓口を周知するとともに、教員自身が相談されやすい雰囲気をつくるよう努める。
- いじめの早期発見や防止に向けた対応に関する評価は保護者3.1、生徒3.0である。今後も組織的に対応できる体制を維持するとともに、「学校いじめ防止基本方針」の保護者・生徒への周知を徹底する。

(4) 保護者・地域の期待に応え得る学校づくりの推進

- ① 低学年からの計画的かつ組織的な進路指導を展開し、全生徒の進路実現を図る。
- ② 自己理解と社会理解の深化に努め、個性を生かした進路指導の充実を図る。
- ③ 海外語学研修、北高祭、長崎北高ココデショ等、特色ある教育活動の充実を図る。
- ④ HP・「長崎北高NEWS」・メールメイト等で、適正な情報発信と情報公開に努める。

- 生徒一人ひとりに応じた学習指導についての評価が保護者2.9、生徒2.8と例年同様低く、改善の余地が残されている。また「職業について、生徒に具体的に考えさせる指導をしている」についても、ここ3か年、保護者・生徒ともに2点台と低評価である。昨年度から1年生を対象に始まった県内企業説明会である「未来人材育成セミナー」のほか、来年度から始まる「ふるさと教育」などを通して、職業観の育成を図っていきたい。
- コロナ禍のために海外語学研修は実施できなかったが、北高祭は規模を縮小し、参加者も生徒に限定したものの実現できた。
- 広報活動に関しては、保護者3.2、生徒3.1の評価である。体育祭では、観覧できない保護者のために新たに動画配信などを行ってその様子を伝えた。今後の課題としてはホームページの更新回数を増やしていくことである。

4 学校関係者からの意見・助言等

- 学校評価項目の「分かりやすく質の高い授業を行っている」が改善されているのはとてもいいことである。今後とも是非続けていってほしい。
- ホームページの更新、広報活動は評価が減となっているが、少子化が進む中、これから入学する生徒やその保護者への北高の取り組みを発信することは大切なので、引き続き魅力ある発信をお願いしたい。
- コロナが流行する中、生徒・職員へ配布された「1人一台タブレット端末」の効果的な活用のために、先生方の研修と実践が大切である。
- 一人ひとりの進路意識を向上させ、個人の希望に合った進路を見つけさせる仕掛けがとても大切になってくる。「一人ひとりを大切にす北高」というイメージの定着が志願者の増加につながる。
- 定員減により文化部の統合や2つの部の募集停止が行われたが、これからも結果ありきではなく、生徒・関係者と協議を重ねてほしい。生徒の意欲や主体性を大事にしたこれまでの取り組みを継続してほしい。
- 「つがのき」はいつも読んでいるが、学校の様子がよく分かる。保護者もいろいろな情報がわかって感謝していると思う。「北高コッコデショ誕生秘話」等、特別な記事があると興味があくのでは。
- 「学ぶことの楽しさ」や「学ぶことの必要性」を伝えてほしい。コーチングやファシリテーションスキルを獲得することも大切ではないか。
- 高校生の本分は勉強であり、県外の難関大学も含めて挑戦し、外でいろいろな経験を重ねることも大切である。一方で本県の人口減少など課題がある中、生徒たちに長崎の企業経営者や北高OBの声が聞けるような環境づくりを行政と連携しながら取り組んでほしい。

5 学校側の取組

- 養護教諭や保健主事が率先して新型コロナウイルスの感染拡大防止の呼びかけや対策を講じた。教務部・事務部も連携し、教室や職員室でシールド設置を行った。メールメイトで情報発信を適宜行うこともできた。
- 生徒募集の一環としてホームページ上で中学生が興味をもちそうな内容の動画配信を行った。
- 1人一台端末の活用は、授業はもちろんその他の教育活動でも積極的な活用を図りつつ、本校の特色ある魅力を校外に向けて発信していく。
- 次年度より「ふるさと教育」の一環としての課題研究活動を強化し進路意識の向上を図る。また、本活動で主体性や協働性、創造性のほか、地域への愛情を培っていききたい。